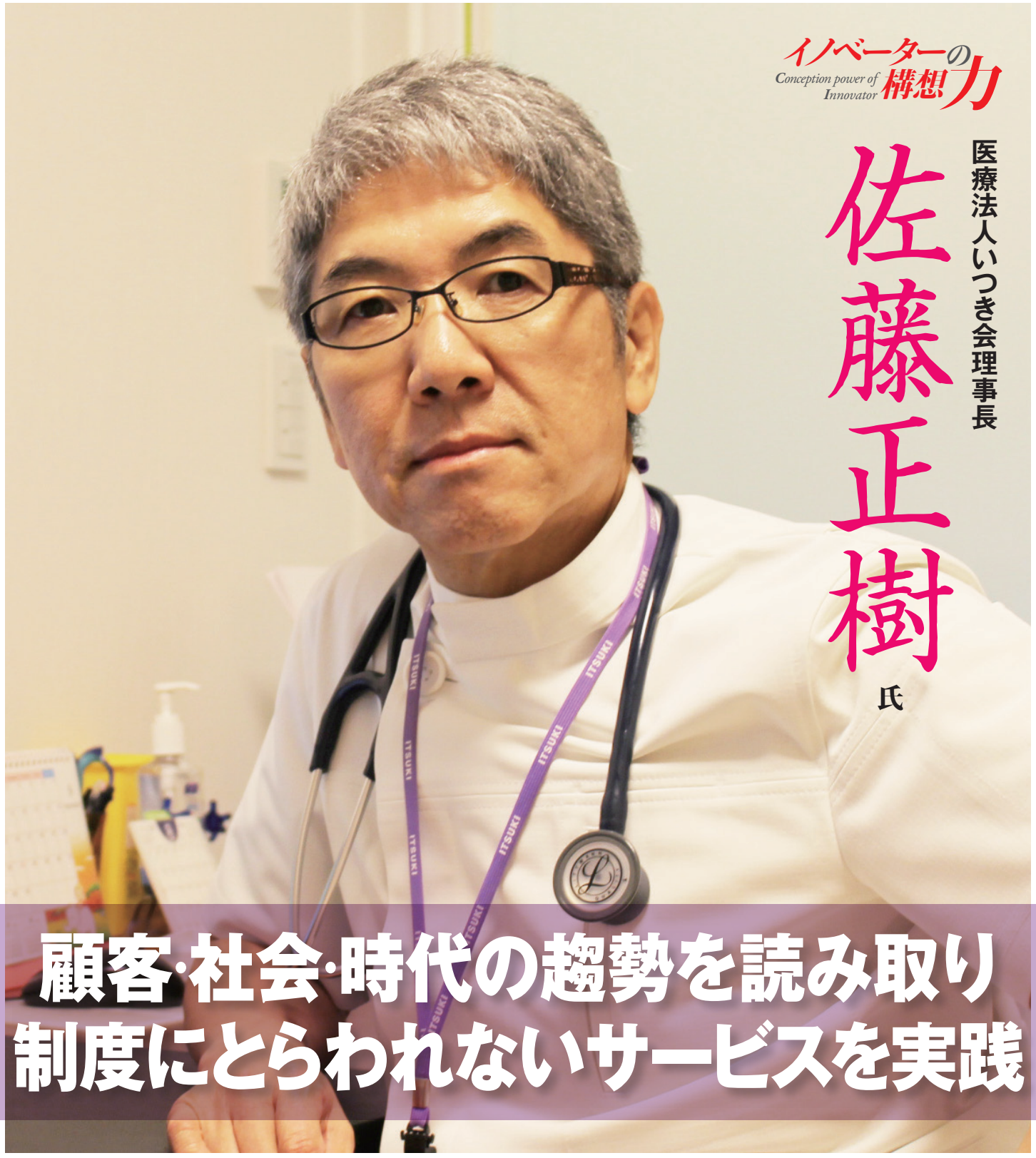

イノベーターの構想力
Conception power of Innovator

医療法人いつき会理事長

佐藤正樹 氏

顧客・社会・時代の趨勢を読み取り 制度にとらわれないサービスを実践

夜間透析をはじめ透析患者のためのリハビリや住まいの提供など、患者はもちろん、
地域住民のQOL向上をベースにした事業を展開してきた。
その集大成として2012年には名古屋市内にアンチエイジングをコンセプトにした
医療・介護・健康の複合施設を開設するなど、
リーダーとして組織をけん引する佐藤正樹理事長の情熱は尽きることがない。

撮影=鈴木健司

数年先の保険制度を見据え医療・介護周辺事業を展開

佐藤正樹理事長は、1995年に愛知県犬山市初となる透析専門の「樹クリニック」開設以降、有床診療所、介護老人保健施設、住宅型有料老人ホーム、デイサービスを展開。2012年には診療所、血液透析センター、介護老人保健施設、サービス付き高齢者向け住宅、デイケア、訪問介護、居宅介護支援事業所、リハビリ施設、フィットネスクラブ、レストラン、カフェで構成される地上8階建ての複合施設「メディカル いつき」を開設した。

もともと公立病院の勤務医として腎炎と腎不全の治療をしていたのですが、当時、夜間透析ができないという問題に直面していました。結局、公立病院では対応できず、「自分でやるしかない」と開業しました。その後に展開してきた事業も基本スタンスは同じ。QOLを高めるためのリハビリや運動、退院後に自宅に戻れない高齢患者さんのための住まいなど、すべて患者さんに必要な機能を整備してきただけのことです。とはいえ、事業を進めるなかで、それぞれの場所が離れていたため、経営効率はよくありませんでした。点在する機能を1つにまとめれば、利便性も高まるだろうと考え、これまでの事業の集大成の1つとして開設したのが「メディカル いつき」です。

フィットネスクラブは利便性を考えて都度払いを採用。30～40代の女性を中心に会員は増えている

食事・運動などのサービスは透析患者に提供してきた医療を通じて培ってきた

レストランでは有機栽培など食材にこだわるほか、管理栄養士による健康メニューも提供している

ここでは身体の状態をゼロからプラスに引き上げる「アンチエイジング」をコンセプトに医療・介護サービスのほか、医師と管理栄養士によるカロリーを抑えたメニューを提供するレストランやフィットネスクラブも併設しています。また、診療所では一般外来に加えて、美容皮膚科やアンチエイジングドックを開設し、受診された方一人ひとりに合わせた食事や運動方法などの提案も行っています。この時期に、元気な人の健康維持も含めた予防事業に乗り出した目的の1つは、医療・介護事業に蔓延している閉塞感を打破することにあります。

日本はすでに人口減少社会に突入しており、今後も総人口は減り続けていきます。このままでは早晩、医療・介護保険制度は限界を迎えるのは確実です。当然、保険診療については限られたパイの奪い合いになるでしょう。もちろん競争に打ち勝っていくために、医療の質やレベルを高める努力は必要ですが、差別化を図っていくためには、それだけで十分とは言えません。保険診療だけにとらわれている医療機関は、明確な特徴を打ち出せず、競争時代に淘汰されてしまう可能性が高いと思います。

充実した医療・介護周辺サービスの提供は経営の安定化はもちろん、地域住民のQOLを高め、健康寿命を延ばすことも期待できます。ひいては医師不足と患者増によって疲弊している基幹病院の負担軽減や医療費の削減にもつながります。非常に価値のある取り組みだと考えています。

医療・介護周辺サービスはまだまだ大きな可能性を秘めていますし、これからもこの充実に努め、法人の理念である『エンジョイ・マイ・ライフ』を実現していきたいと思います。

目先の利益にとらわれず利用者視点のサービスを追求

フィットネスクラブの会員数は2563人(14年8月28日現在)。42条施設であるが、フィットネスとしての利用者が中心で、最も多いのは30、40代の女

性である。利用者視点から月会費制ではなく、入会金なしの都度払い方式を採用。ジム760円、ヨガなどの各種スタジオプログラム30分540円などリーズナブルな設定で、月1万円を超えるとそれ以上の利用は無料となる。

一般的なフィットネスクラブは月会費制ですが、これが「あまり利用しないかもしれない」と考える人にとって高いハードルになっていました。健康維持に貢献するには多くの人に利用してもらう必要があるので、利用者に不利益となる仕組みはすべて撤廃しました。

正直に言いますと、都度払いはあまり利益率がよくありませんが、ハードルを下げたことで、お客様の数や利用回数は増えてきています。フィットネス（利用者数：1日100人）やレストラン、カフェ（来店数：1日約60人）の利用をきっかけに当施設のことを知るという人もいますので、認知度を上げる効果は高いと思います。また、フィットネスのお客様のなかには美容やアンチエイジングに関心の高い人が少なくありませんので、こうした人たちにアンチエイジングドックや人間ドックなどを利用してもらうことを想定していますが、これについてはこれからの課題です。

慣習にとらわれない人材とともにこれまでにない事業を推進する

医療・介護だけにとらわれない事業展開にあたり、佐藤理事長は法人内に事業戦略を構想・実践する本部機能を創設。スタッフとして新たに採用されたのはホテルマンやテレビのディレクター、自動車のトップセールスマンなどである。

医療関係者だけで事業戦略を考えると結局、従来の延長線上の発想しかでてきません。また、医療の世界に長年いると、新しい事業に対して「リスクが高い」と保守的になり、保険診療以外の事業に取り組む努力をあまりしようとしません。実際、医療関係者に自分の発想を話すとほとんどが「斬新すぎる」と受け入れられにくいのですが、新しく採用した本部スタッフは1つの事業としてとらえてくれました。保険診療以外の新しい事業は、医療関係者以外の幅広い発想も必要だと思います。

今後の展望としては、海外での事業展開を考えています。日本の医療技術は優れていますし、自分たちの培ってきた医療や介護、住まい、運動、食事をセットにした、現在の事業モデルは海外でも必ず受け入れられるはず。まだまだ構想の段階ですが、近い将来、必ず成し遂げたいと考えています。

さとう・まさき

1981年　名古屋市立大学医学部卒業
1993年　公立尾陽病院内科部長
1995年　樹クリニック開設
2002年　いつきクリニック一宮開設
2004年　介護老人保健施設いつきの里開設
2007年　住宅型有料老人ホーム
　　シニアステージいつきの夢開設
2012年　メディカルいつき開設
2013年　守山いつき病院（101床）開設

メディカルいつき

〒466-0842　名古屋市昭和区檀渓通5-26
TEL：052-831-2211
FAX：052-831-2250
http://ituki.com/cl_ishikawabashi/
診療科目：内科（総合内科、循環器・呼吸器・消化器・腎臓）、小児科、皮膚科、美容皮膚科、血液透析科、形成外科、リハビリテーション科、整形外科

1F：いつきクリニック石川橋・カフェ
2F：血液透析センター（60床）
3F：介護老人保健施設いつきの里石川橋（22床）
4F：サービス付き高齢者向け住宅
　　シニアステージいつき石川橋（22戸）
5F：アクティブいつきフィットネスクラブ
6F：デイケアセンター
　　訪問介護・居宅介護支援事業所
7F：リハビリセンター、レストラン